



Q:「竹マーク」を立上げましたね。

A:メーカーの品質保証マークとして

野村産業(株)社長・野村弘氏

—竹せんいマークを立上げましたね。内容をご説明下さい。

野村 = 昨年12月18日、記者会見で発表しました。レーヨン製法によるバンブー素材に付ける品質保証マークです。当社がライセンスを保有し、東レ、クラボウ、日本毛織そして中央毛織、トーア紡の6社がサブライセンシーです。6社各々が設けた基準で品質レベルを守り、ラベルを供給し、アパレルや消費者への訴求を図ります。



—なぜ、今マークを設定したのですか。数年前から展開していたと思いますが。

野村 = 確かに今、何故という疑問もあります。ご承知の通り、バンブー素材は自然の抗菌、消臭性や光沢、綿以上の吸湿性があります。また「竹取物語」に見られるように日本人の竹に対する趣向性もあり、過去数年人気を集めています。それに木材パルプに比べて竹は成長が早く、地球環境にも優しい繊維です。こうしたメリットから中国、インドなどから原料や製品が日本に入ってきました。大手量販店も製品を輸入しています。自由競争ですから、これに対してとやかく言うつもりはありません。しかし、消費者のために何らかの品質保証は必要と考えたのです。

—それで特許を取得したのですね。

野村 = 昨年7月、「紡績糸及びそれを使った織物、ニット」に関して特許を取得しました。

「竹マーク」に関しては商標申請中です。竹繊維の生産・供給の秩序化とイメージを統一して消費者に安心して購入していただくためです。

—品質基準はどうなっていますか。

野村 = 竹の混入があまり少なくては意味をなさないので、「20%以上」とし、劣位の原料は使わないようにしています。糸やテキスタイルの品質管理は各社が責任を持って厳しく対応しています。

—各社の生産振り分けはどうなっていますか。

野村 = 基本的には各社の得意分野で展開するという分業で対応します。当社は梳毛使いのレディスとメンズジャケット地、東レは合繊混紡、クラボウは綿複合、日本毛織はウール複合という具合です。中央毛織はワーキング、トーア紡は横編みにそれぞれ限定しています。市場開拓や普及活動のため「竹マーク推進事務局」を東レの婦人・紳士衣料部の中に設けました。当社の製品はバンブーとウールを統一した「BAMBOOL」の商標で展開します。

—中小メーカーが大手企業にライセンスを供与するのは稀ですが。

野村 = 竹繊維が消費者にとって喜ばれる素材である、他社と競合しない商材を持ちたい、品質保証もしたいという思いがすべてで、供与は結果です。ライセンスビジネスということを経験したのは、たしかに大きなことで、尾州産地のひとつの生き方を示すでしょう。小さくてもオンリー・ワンになれるという点で・・・。

—是非、成功させて下さい。